

■令和2年度 八戸市健康福祉審議会
健康・保健専門分科会 会議録

日 時	令和3年2月3日(水) 15:00~15:46
場 所	八戸市総合保健センター 3階 会議室1・2
出席委員	小倉 和也 専門分科会長 壬生 寿子 副専門分科会長 深川 公夫 委員 松川 充 委員 伊藤 恵美子 委員 山本 恵鶴子 委員 以上6名
欠席委員	中里 裕子 委員 以上1名
事務局	佐々木健康部長、工藤保健所長、小笠原保健所副所長兼保健総務課長、 山田健康づくり推進課長、田端健康推進グループリーダー、類家子育て世代 包括支援グループリーダー、山村母子保健グループリーダー、原成人保健グ ループリーダー、四戸副参事、渡部主幹、森林主幹、角浜保健師、武田保健 指導員、
議 事	1 令和2年度「第2次健康はちのへ21」の進捗状況について 2 「第2次健康はちのへ21」の計画期間について 3 各団体の健康づくりに係る取組状況について 4 その他
結果概要	資料のとおり事務局から説明 議事1 令和2年度「第2次健康はちのへ21」の進捗状況については、 目標項目の実績と取組状況について承認された。 議事2 「第2次健康はちのへ21」の計画期間については、事務局案(現 計画期間を2年間延長し、令和6年度までとすること)のとおり 承認された。 (以下、議事詳細)

▼会議内容

■ 次第

- 1 開会
- 2 専門分科会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 令和2年度「第2次健康はちのへ21」の進捗状況について
 - (2) 「第2次健康はちのへ21」の計画期間について
 - (3) 各団体の健康づくりに係る取組状況について
 - (4) その他
- 4 閉会

■ 専門分科会長あいさつ

本日は、お忙しい中ありがとうございます。八戸市健康増進計画「第2次健康はちのへ21」の進捗状況などをご審議いただきたいとおもいます。委員の皆様からご意見を頂戴してこの計画を推進し、市民の健康づくりを進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願い致します。

それでは、次第に従いまして議事を進めてまいります。

■ 議事の概要

議事1として、資料1に基づき、令和2年度「第2次健康はちのへ21」の進捗状況について事務局から説明を行った。

次に、議事2として、資料2に基づき、「第2次健康はちのへ21」の計画期間について事務局から説明を行った。

議事3として、各団体の健康づくりの取組状況について、各委員から説明を行った。

最後に議事4として、その他で質問・意見交換を行った。

■ 各団体の取組状況

⇒深川公夫委員

健康づくりに関する取組状況について、とくに報告するようなことはなく、どこの事業所も同じだと思いますが、この1年間はコロナ対策の徹底、いわゆる入り口に検温器を置いたり、手指消毒剤を配置する、みなさんやっていることを会社ではやっていますし、感染者が出た場合の対応マニュアル作りを徹底すること、リモート環境の職場づくりをシミュレーションしながら、感染者が出た場合、いかにこの事業を継続して、信号を出し続けていくか、そういうリモート環境の整備づくりを今作っていきたいという風に思っております。ただ一つどうしてもリモートでできない職場が、例えば印刷関係とかですね、そういうところで感染者が出た場合に対策をどうするか、という問題を抱えており、おそらくどこの会社にもそういう職場があると思って、その人の対応をどう見出していくかがずっとした悩みでございます。コロナ対策の徹底といってもなかなか特効薬もないので、ワクチンそれから薬が出てくるまで、予防の徹底を言っていくしかないのかなというのが現状です。

⇒松川充委員

当会もいろんな事業イベント等計画をしておりましたけれども、結論から申し上げますとほぼ中止・延期という形でやっております。例年でありますと、6月4日から10日の

「歯と口の衛生週間」のところに大きなイベントをやっておりますけども、それですらも中止、秋は65歳以上の方の良い歯のコンクールをやっておりましたけれども、それも中止、すべて中止で、毎月定例会を60名から70名位の集まりの会を行っておりますけど、それも秋以降ほとんど開催されておられません。楽しみの新年・忘年会の飲み会も残念ながら中止。先週から研修の多い事業で、感染対策事業の講習会がちょうどこの部屋で40くらいの人数でありましたけども、あとはリモートが多くなっているような次第です。次年度も今の状況ではどうなるかわかりませんが、状況を見合わせて対応していきたいというところであります。

⇒伊藤恵美子委員

栄養士会のほうでは、健康フェスタでの減塩活動やフレイル予防の栄養相談のほうを行ってきておりました。令和2年度に関しては、コロナ禍ということもあり、パネル展示での参加をさせていただいておりました。はちのへ21の改訂版121ページ122ページのほうでも食に関する内容についてのコメントがたくさんありまして、健康に生活するために食生活の重要性というのを市民の方がすごく感じていらっしゃるなということを感じ受けました。低栄養予防の講演であったりとかというところで、できるだけ沿うようにしたいと考えておりますが、コロナ禍ということもありまして、厳しい状況があるのかなと思っております。今後も栄養・口腔・運動の改善のところでは栄養士会としてできる限りのことは努めさせていただきたいなと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

⇒山本恵鶴子委員

特に専門はないですが、一市民の考えとして、コロナのせいでほんとにみんな生きていくうえに必要なものって何なんだろう、というのがはっきり浮き彫りにされてきたような気がしていました。あともう一つ、こころの相談窓口一覧というのをさっきからこう眺めているのですが、対応してくださる方々はカウンセラーの方で専門的な方だとは思いますが、私ちょっと不安なので、例えばどういう資格があるとか、どういう研修をしているとかそういうところまで見たい人は見れる何かがあるといいかなと思いました。

⇒壬生寿子副専門分科会長

八戸学院大学です。大学としては講義とそれから関連した実習、それからスポーツ学生がおりますので、部活動が非常に活発に行われておったのですが、昨年今の時期から感染が広がってきたということで、大学としての感染予防対策のプロジェクトチームを立ち上げております。プロジェクトチームが軸になりながら、いろんな情報を学生たちに発信する、随時変化してくる国の施策とかも取り入れながら、文部科学省とか厚生労働省、それからスポーツ庁とかいろんな省庁の情報を入れながら体制をとってきました。

ここ一年間。お陰様で大きな感染拡大もなかったようですし、部活動の中でも他大学と

の交流があって、他大学からの感染で1・2名の感染者は出たのですが、そこもなんとか抑えられることができまして、今のところ無事授業を、オンラインの環境がまだ整っていないので、できるだけ対面ということで、今は対面で授業は勧められております。

実習に関しましては、看護学科が最中の実習の期間になっておりまして、病院側と随時状況を見ながら、市内で感染がちょっと広がったよとなると中止する、落ち着きましたら受け入れていただくという形で、柔軟に実習施設と連携取りながらできるだけ実習できるような方向でさせていただいております。昨年度4年で卒業された学生さんたちは、実習をしないまま卒業をしてしまうということに非常にハンディがありますので、そこをなんとか実習を受け入れていただきたい旨を伝えながら進めてまいりました。今も拡大はあまり広がっておりませんので、3年生が最中ですけど、一部の病院ではできませんが、受け入れていただけるところは受けていただきながら進めております。特に看護学科は医療機関との関係が大事になりますので、健康チェックや行動表とか求められますので、学生たちにはここ一年間ずっとこの健康管理シートを書かせまして、毎日チェックをしてゼミ担の先生方と連絡取り合いながら密に進めてまいりました。

年度末で卒業式とか控えておりますけれども、昨年度は卒業式ができなかった、今年度も入学式ができなかったということで、学生たちに少しでも良い方向にしていきたいなということで、今年度は3月17日に限定しながら、厳密にしながら卒業式だけはしていきたいなと思っております。入学式はどうなるかまだ分かりませんが、学生たちのために何かいい方法を考えながらやっていきたいなと思っております。今のところ大きな変化はなく無事この一年間過ぎたかなと思っております。

⇒小倉専門分科会長

最後に医師会としての取組についての状況をお知らせします。医師会としましては、通常の診療とか、健診センターでの活動ですね、医療提供はもとより、そのことをしながらコロナ対策を治験と協力しながらやっていくということでこの半年、医師会として取り組んでもなかなか課題のほうが多いです。まずは先ほどの話にもありましたけれども、コロナの感染症予防をとるにあたって、とてもコロナの状況が日常への影響が大きいところ、特に分散とそれから自宅での対応とか、当院でもコロナの対応での優先度は少ないところなんです。

それに加えて以前からその親の相談パターンが多かったですけれども、10代のいる家庭では、大学生でオンライン授業をやるためお家へ帰ってきて、それでやっぱりコロナの影響を受けてしまってどうしたらよいか10代の相談ですとか、そういったものを受けられる環境も少ないといったところで今後もそういった状況が長引く、さらにコロナの感染状況に関してもどういった経過をたどっていくのか、今後も感染の状況がどういう風になっていくか、見極めが難しいところです。けれどもワクチンの供給・接種それから引き続きコロナの対応そして通常の医療と、介護施設との連携によって、介護サービスの提供

も示していこうというところも歯科医師会、医師会でも連携していこうと思っております。

皆さん貴重なご意見ありがとうございました。

■ 質問・意見

1. 深川公夫委員

(質問)

PCR検査キットのついてどの程度の信頼性があるものなのか小倉先生にお伺いしたい。

⇒ (回答：小倉専門分科会長)

今話題になっているところで、検査キットそのものの精度自体のはっきりとしたデータがあるものと無いものと、そこを見極めるのは難しいのかなというところでは。もう一つは一般の方・医療の方、インフルエンザなどもそうですけども、どの検査も100%ではないというところで、診断そのものが検査だけで行うものではないので、その経過ですとか症状、コロナなんかは接触歴ですとかそういったものを勘案した上で確認して合わせてですね、検査データというものをある程度抜き取ってそれと検査そのものの精度と鑑みて結果と掛け合わせるといった感じで判断していく。ただそういったことがないまま、キットだけ使ってなかなか正確な判断ができるのかなということ、時期によって違うということ、急性になったからといって、感染しているのかどうなのか、一連の流れというところが、それをすべて理解してくれて判断しながら使うということが必要ですよ。そこまでチェックされていくのかどうかというところでは。

これは優先度があったり、正常な判断をするにはそういったいわゆるリスクがある、というところで理解していただければと思います。

2. 壬生副専門分科会長

(質問)

コロナの事でまだ続くと思いますけど、今ワクチンが始まると思うのですが、そのワクチンの接種方法とか対策について、市とか医師会の方ではなんか対策とか取られているのでしょうか。まだわからない状況でしょうか。

⇒ (回答：事務局・佐々木健康部長)

ワクチンの対策室をこの4階に11月15日に設置して、まだまだ検討を進めているところです。医師会さんのご協力なくしてこの事業は進みませんので、医師会さんとの協議を

しながら進めておるのですが、まだ何も決定はしていないのでこうなりましたというところのお話は出来ないのですが、方向性としてはですね、通常のインフルエンザのワクチン接種のように、例えばかかりつけ医とか身近な医療機関で個別に接種するという方法ではなくて、現時点では全市民に接種をするもので、16歳以上にするという検討は今されているのですが、まだ決定はされていません。全市民に接種するとなると、やはりある程度大きな接種会場で打っていくというのがいいのだろうということで、集団接種の方向で市内に3・4か所の大きな場所を設置して、そこで接種するというふうな方向で今検討を進めているところです。とにもかくにも国でも言っていますが、ワクチンそのものがいつ入ってくるのかというのが全く示されてはいませんので、ただ我々としては通常通り入ってくるという見込みの下で、とりあえずはシミュレーションしているんな体制を構築していかなければならないなど、ある程度のおおまかな概要は今月下旬くらいにはなんとか市民の皆様にご説明できればなという思いで進めております。

⇒（回答：小倉専門分科会長）

ワクチンに関しましてはそもそも教育というものが違いまして、ワクチンに対する抵抗が先進国の中でも日本とフランスが非常に強いということが言われていて、ただ国民の65%くらい打たないと通常の生活に近い状態に戻れないと言われていています。そういった啓発活動の部分について行っていく必要があると思われれます。フランスの場合にはやっぱりそういう抵抗がいろいろありますけれども、薬局で相談をして薬局でワクチンを打つ、検査もです。そういうところで個別にしっかり話をしたりできる状況にあったり、日本の場合は決してそうはいかず、マスコミだったりいろんなところで取り上げていただき、ワクチン接種についての情報を発信してほしいと思います。